

からこんな結果になる、私はそう見ておるんですが、違うんですか。

市民の今後、今から先のことを考えて不安になるから、だからそれで反対したということなんです、反対している人たちの意見だけを聞いて、賛成をする人もたくさんいるんですよ、対馬の中にも。その人たちが発言をしないから表に出てきませんけども、反対する人たちの意見ばかりが出てきますけど。けども、賛成をする人もたくさんいるんです。9,400人ですか、それ以外の人はどうなんですか。その調査もしてない。ただ、反対の署名があったからそういうふうになっていっているわけですから。常識のある人なんですよ、賛成する賛成の方たちは。いろんなことを考えた中で私は賛成けども、しかし反対の意見が強いから賛成だと言えんというような方たちも多いでしょう。そこら辺はやはり精査する必要があると私は思うんですが、そういう精査もなしに市長は決断を下したわけですから、その決断に対して私は議会制民主主義に反するような市長の判断、これについては苦言を申し上げます。

よくよくそこら辺は考えた中で今後、取り組んでいただきたい。ひっくり返せとは言いません、一度決定したことです。けども、こういうシステムがあるというのは分かっていたいて、そうせんと議会と今度はいまいこといきませんよ。ずっと今度の予算問題が上がってきたときに否決されたらどうしますか、先ほども言いましたが。そういう可能性が出てくるのです。だから、議会対策というのは、そのトップというのは常々やっとなかないかん。そうじゃないと安定してやっていけないということもよくよく踏まえた中でよく考えてください。

もう2分しかありませんからやめますが、私の今日の苦言をしっかりと頭の中に入れて、それに対応を考えていただきたい、このように思います。ありがとうございました。終わります。

○議長（初村 久藏君） これで新政会の会派代表質問は終わりました。

以上で、本日予定しておりました会派代表質問は終わります。

昼食休憩といたします。再開を1時15分からといたします。

午後0時10分休憩

午後1時15分再開

○議長（初村 久藏君） 再開します。

日程第2. 市政一般質問

○議長（初村 久藏君） 日程第2、市政一般質問を行います。

本日の登壇は、1人を予定しております。

それでは、通告により発言を許します。7番、入江有紀君。

○議員（7番 入江 有紀君） 皆さん、こんにちは。入江と申します。お昼からの一番眠たい時

間でですけど、50分だけ私に時間をください。よろしくお願いいたします。

それでは、一般質問に入る前に、市民からの議員に対するクレームが来ておりますので2件言わせていただきます。

ある議員のことでありますが、6か月間にわたり議会に出ず、報酬もボーナスも平気でもらっている議員さんがおられますが、私たち市民は燃油高騰と物価高で大変苦しい生活をしていますが、一生懸命働いて税金を納めております。この議員さんは、幾ら病気でも1年のうち半分も休んでいるのですから、報酬、ボーナスは自主返納すべきです。これ以上休まれるなら、議員辞職をするべきだと私たちは思います。よろしくお願いいたします。

もう1件来ております。

私は、対馬に移住してきて7年になります。議会放送を毎回注目して見ているのですが、ある議員さんのことを議長さんが、早退、早退とよく言われます。不思議に思って、ほかの議員さんに聞きました。この議員さんは猪の仕事をしていて、猪が捕れたら議会中に早退されると聞き、ひどい議員さんがおられると呆れています。お仕事が大事なら、議員を辞めて猪捕りに励まれたらいかがでしょうか。報酬をもらって、議員の仕事はしないで、ずうずうしい議員さんですね。すぐにでも議員辞職してください。

以上です。

実は、私もそう思いまして、私はクレームが来て議長宛てにこの議員のことを内容証明で注意をするようにお願いをしましたが、全然聞いてもらえず、いつもこの方は休まれるし、猪のお葬式で委員会も毎回まともに出席されません。市民はよく見えています。反省しないなら辞職すべきです。今後こんな自堕落なことをするようでしたら、私は市民に公表します。議員辞職しないなら、休まないでください。議員を続けられるか、猪を取られるか、どちらかを選ぶべきだと思います。

以上です。

それでは、通告をしておりました文献調査について。市長は、議会を軽視して報道陣に先に発表した経緯を知りたい。

企業誘致について。企業誘致を持ってくるにも、対馬の条例ではどうにもならない。どうしてこのような条例をつくったか。

ヤングケアラーについて。一般質問で何度も言ってまいりましたが、現在のヤングケアラーの数を把握していると思いますので、教えてほしい。

移動販売車の件は、文献調査で時間が要りますので、3月の議会に回します。

以上です。よろしくお願いいたします。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 入江議員の質問にお答えいたします。

初めに、文献調査の受入れ反対について、事前に誰かに話したのではないかという御質問でございますが、一定の市民、報道関係者に対しては、議会での見解表明まで話はしておりませんので、そのようなことを言われるのは遺憾であります。

報道機関がどのような聞き取りを行い、あのような記事を書かれたかは承知しておりませんが、議会の見解表明以前に公表している事実はありません。ただし、当然、副市長及び総務部上層部には、見解表明前日に見解を伝えて議会での発表の準備をしていることを申し上げます。

次に、2点目の企業誘致における対象分野に対する質問でございますけれども、現状の対馬市企業誘致に関する条例第4条第1項に定める対象事業分野は、製造業、旅館業等観光関連産業、そしてソフトウェア業、情報処理サービス業の4分野であり、同条第2項により市長が特に必要と認めたものについては、前項の規定にかかわらず指定することができることとなっております。

なお、本市の定める対象事業分野の選定については、長崎県をはじめ県内各市町の対象分野を精査し、選定しているところでございます。また、4分野以外の業種における指定の可否については、立地意向企業の経営規模や事業性、地域経済への波及度、地域課題の解決度等を精査するとともに、市内事業者との競合性の有無を十分検討し、決定することとしております。これまでも、市内事業者との競合性の観点から、大型小売業等の出店に際しては、企業誘致の指定はしておりません。

次に、本年度における企業誘致の取組状況でございますが、ようやくコロナ感染症も5類に引き下げられ、国際航路も再開するとともに国内外の観光客も徐々に増加傾向となりましたことから、少しずつではありますが取組を進めているところでございます。

まず、昨年度において廃校舎の利活用における利用料の免除等を可能とする制度設計を行いましたことにより、本年度においては利活用可能な廃校舎の詳細情報をはじめ、企業誘致条例に基づく支援の概要や創業、事業拡大に対する支援制度、移住に対する各種の支援制度を網羅した企業・個人向けパンフレットを作成し、来島される事業者の方々へ御説明するとともに、福岡、関西、東京の各対馬会総会において説明、PRをさせていただいているところでございます。

また、企業誘致を進める上で基本となります企業誘致に関する条例につきましても、離島というハンディを少しでも緩和できますよう県内外の各市町の支援内容を精査し、本市独自の支援策の追加をはじめ、指定基準の緩和や優遇措置の拡充を盛り込んだ内容として一部改正案を本定例会に上程させていただいております。

なお、現在、進行中の立地案件といたしまして、長崎県産業振興財団との連携により、主に女性が働ける雇用分野を確保するべく、東京に本社を置く事務系の事業者との間で立地協定の締結に向け、事務レベルでの協議を進めてきた結果、先方より前向きな回答もありましたことから、

先月11月27日に私自ら企業を訪問し、先方の代表者と面談し、立地のお願いをしてきたところでございます。

なるべく早い時期に議員各位をはじめ、市民の皆様により報告ができますよう、引き続き、詰め協議を行ってまいり所存でございます。

3点目のヤングケアラーにつきましては、この後、教育長のほうから答弁させていただきます。

4点目の移動販売車については、今回は流すということでございますので、割愛させていただきます。

私のほうからは以上でございます。

○議長（初村 久藏君） 教育長、中島清志君。

○教育長（中島 清志君） 入江議員の質問にお答えいたします。

ケアラー、ヤングケアラーについては、6月の第2回定例会の一般質問において、長崎県が県内のケアラーの実態を把握するためにアンケート調査を実施し、その結果を基に策定するケアラー支援推進計画に沿って、ケアラーが個人として尊重され、日常生活においてその人らしい生活が送れるように、市としてもケアラー支援の推進をする旨、市長から答弁をいたしました。

議員お尋ねの今年度の長崎県のヤングケアラー実態調査の数についてでございますが、学校種ごとの内訳は、これは県の人数ですが、小学生415人、全体の4.5%、中高生が519人、全体の3.6%です。

対馬市においては、小学生が10人、これが全体の5.2%、中高生は8人、全体の2.7%となっております。

今回の調査対象外の児童・生徒としては、現時点では1件の報告があり、関係の学校と連携して対応を進めているところです。

また、ヤングケアラーの把握につきましては、各学校からの報告により、ヤングケアラーの数を把握しているところです。具体的には、各小・中学校で定期的に行っている生活アンケートにヤングケアラーに関する質問項目を盛り込んで調査を実施しております。

ヤングケアラーの質問項目に該当する児童・生徒がいた場合や、調査以外にも個人面談や家庭訪問等により、ヤングケアラーに該当する実態を把握した場合は、教育委員会に報告をいただくよう指示をしています。学校関係者は児童・生徒に接する機会が多いことからヤングケアラーの存在に気づき、対応に結びつけることができるよう各種研修会において教職員のヤングケアラーへの理解を図る機会を確保してまいります。

今後といたしましては、冒頭にも申し上げましたが、長崎県が策定するケアラー支援推進計画に沿ってケアラー支援の推進を図ってまいります。

以上でございます。

○議長（初村 久藏君） 7番、入江有紀君。

○議員（7番 入江 有紀君） それでは、文献調査から行きます。

文献調査の発表のことで、議会を軽視して報道陣に発表して、先に、7時のニュースで見ると私はびっくりしたんですが、こういうことをしていいんですか。議会をばかにしているじゃないですか、これは。あんまりだと思います。こんなことをして、これからうまくいきますか、市政が。

それと、私が議会が始まる前に市長席に行ってから、議会軽視がひどすぎると言いましたよね。そのときの市長のあの態度、私に対して3回どなりつけましたよ。俺は言っとらん、俺は言っとらん、と。あれが市長の取る態度ですか。もうちょっと市長やったら市長らしくどしどしとして、俺は言うたらんなら言うたらんと言うべきやないですか。大きな声で3回どなって。傍聴席まで聞こえていたじゃないですか、あれは。そして、ニュースにもなっていましたよ、全国ニュースにも。恥ずかしい。本当、市長らしい態度を取ってください。自分のしたことを認めないで、今も認めていなかったでしょう。

市長が発表せんでから、何が、ほかのものが発表するわけがないやないですか。言い訳ばかりしてから。したならしたとはっきり言いませんか。大声でどなって、傍聴席も報道陣もあきれていましたよ。全国ニュースにも載っています。

来年出馬されるそうですが、市民はもう、あなたの2期8年の政治を飽きてしまっています。もう企業誘致も何も持って来んで、市民のために何にもしてくれんで、仕事がないため若い人はどんどん本土へ出てしまう。人口は減る。それをじっと何もしないで見ていたのが、あなたですよ。あなたの8年間ですよ。

市長がまた出るということを市民の人が聞いてきて、また出るの、何で、今の市長はもう駄目よ、と聞いてきますよ。本当にそのとおりですよ。来年はやめられたほうがいいと思いますよ。あなたが来年市長になって、対馬の発展のために人口の増えるような施策を何を持ってこようと思っただけで出馬されるか、お答えください。（「入江さん、発言は気をつけて言ってください」と呼ぶ者あり）お答えください。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 一遍にいろいろ出ましたので、まず一つ一つお答えしたいと思います。

議会を軽視して先に発表したということで、先ほども私、答弁いたしましたとおおり、これは私は確かに前日には副市長、総務部上層部には明日の発表の意向を伝えて、その準備をしておりますけれども、そのほかには全く話はしておりません。

要は、これはおそらく報道機関のほうにいろいろ取材の上、想定の下で書かれたものというふうに思っておりますけれども、新聞記事をもう一度よく見てください。「する」ということは、

完全には言い切っておりません。「する予定です」とか、「する模様です」とか、そういう書き方がされておりますので、あくまでこれは報道機関の推定の下でそのような記事が書かれているものというふうに理解をしていただきたいというふうに思います。

それから、その企業誘致の件でさっきも申し上げましたとおり、今、東京の企業のほうと、今のところ女性が25名から30名近くになるということでございますけれども、BPO関係の業務で詰めの作業をしているところでございます。私もこの11月、先ほど申しましたように、27日に直接社長のほうとも話をしてきました。そしてお願いもしてきましたが、できればこの議会中にその結果を教えてくださいたいと。そして、教えていただければ最終日にでも発表をしたいということで申し上げております。

昨日の議会、冒頭のときにも申し上げましたように、今、関西経済同友会とともに包括連携協定を結んでおりますサラヤ株式会社様や関西再資源ネットワーク様と、この対馬の海ごみの再活用を目標とした会社をこの1月中に対馬市内に立ち上げるということで、このことについては、この12月3日に米国の大使と韓国の大使が対馬に海ごみの回収にお見えになった際に、サラヤの社長自らもお見えになりまして、私のほうにその旨お伝えをいただきました。

このことについては、まだ詳細は決まっておりませんが、何せ1月中には会社を立ち上げる予定にしているということでございますので、このことについては私も期待をしているところでございます。

そして、そのほかにも、今SDGsの関係とか、NTTさんが対馬市内のほうで光ケーブルのネットワーク関係を構築しているところでございます。その関係で、先月も今廃校になっている学校等を見学をしていただいているところでございますので、ワーケーションをはじめ、そしてまたそのような情報関係の業務に関わるということで、進出をまた今後もお願いをしてまいりたいというふうに考えているところであります。

以上です。

○議長（初村 久藏君） 7番、入江有紀君。

○議員（7番 入江 有紀君） 文献調査を断って、国を逆手に回したわけですけど、先ほどの船越議員の答弁で、あなたは、文献調査を断ったところで国は要望を聞いてくれますよ、という答弁をされましたけど、国が文献調査を断って、国を逆手に回して、何が要望を聞いてくれますか。甘いですよ、考えが。甘いと思いますよ、私は。もう対馬の要望を一切聞いてくれませんよ。もう逆手に回したっちゃから。何が聞いてもらえる。甘いと思います、考えが。

文献調査の記者会見を私見せていただいたんですけど、市長の。もう、文献調査の勉強をせずに記者会見をされて、本当にあれを見とったら恥ずかしかったです。私たち勉強している人間にとっては、答えることが、本当勉強していない答えをずっと出していました。本当、恥ずかしか

ったですよ、あれ。そして、対馬市議会が文献調査に賛成したということで、大臣がわざわざ出張中にカナダから電話を入れているんですよ。そしたら、市長が電話に出ていないんですよ、2回も電話しても。あなたは、大臣より偉いんですか。私、びっくりしました。国に行ってからこの話を聞いてきて。あんまりですよ。わざわざ大臣がカナダから電話をかけているんですよ。

そして今、もうあなたが断ったおかげで担当大臣の立場が悪くなってから、本当にかわいそうだと思いますよ。それを考えると。今後の対馬は、本当あなたの大好きな衰退で終わるんですよ、このまま。（「ちょっと言葉には気をつけてくれませんか」と呼ぶ者あり）衰退で終わりますよ。そうじゃないですか。（「あんまりじゃないですか」と呼ぶ者あり）あんまりじゃない、そうやないですか。今まで8年間で衰退したじゃないですか。人口も減ってから。

○議長（初村 久藏君） 入江議員、発言には十分注意をして発言してください。

○議員（7番 入江 有紀君） 私は、11月9日から永田町に行き、国会議員の方々5人に対馬市の要望書を持って行って一応決算を全部持って行ったんですよ。何もかも、対馬市のことを、要望書と一緒に。そして、一市議会議員で私が大それたことをしたと思って謝って行ったんですけど、あなたは勇気があってなかなかよろしいと褒められたんですけど、このままの対馬では文献調査を断わってしまってもう何のあれもないんですよ。だから一応、現在の状況を見てもらったら、夕張がちょうど落ち込んだときと同じ状態だと思います、私たちは今。対馬のを全部持って行ったんですよ。そしたら、このままではもう駄目だなということでは言われました。

そして、一応、対馬を救う会を代議士5人でつくってもらうようお願いして帰ってきました。夕張の2代目になりますよ、このままにしといたら。そして、大臣5人に聞いたんですけど、市長に会ったことがないという大臣ばかりだったんですけど、あなたは国に要望とかに行っていますか。お答えください。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 何から答えたらいいか本当分かりませんが。（発言する者あり）いろいろ一遍に来るものですから。まず後ろから。

要望に行っているかということでございますけども、私もずっと要望には行っております。そしてまた、国会議員の先生にもその際、会いますが、この放射性廃棄物処理場の問題については、国会議員の先生からも直接何もそういった要望とか指示は受けていないということでございます。よろしいでしょうか。

そして、先ほど、どこから今の対馬の財政状態が第2の夕張かということをおっしゃられたと言いますけども、今現在、対馬市の令和4年度の実質公債費比率は7.7%です。夕張とか、そういったところは、もう既に早期健全化基準も25%を超えておりますし、確かあそこは35%、財政再建団体ということで基準35%以上になっているものと思います。他の自治体のことをとやか

く言うことはありませんけれども、対馬市の財政は確かに厳しい中ではありますけれども、今現在は健全な財政状態といえる状況であります。（拍手）

○議長（初村 久藏君） 静かにお願いします。7番、入江有紀君。

○議員（7番 入江 有紀君） 私は、文献調査をお願いに行ったわけじゃないんです。文献調査が終わってから対馬市をどうするかと思って、決算書とか全部持って行ってきました。それを見た5人の代議士が、鈴木さん、北海道の夕張にあったときと同じ状況だったそうです、私が持っていたのが。だから、その代議士がこれでは危ないからということで、一応、対馬を守る会をつくってやろうやということで話はしてきたんですけど。

文献調査を頼みに行ったわけじゃないですよ。文献調査を頼みに行ったところであなたが反対したんだから、何もならんやないですか。これからの対馬を頼みに行ったんですよ。あなたが全然上とのつながりがないから、それができないじゃないですか。今までの市長と違って。全然上とのつながりがないじゃないですか。この5人の代議士が全然会ったことがないと言っていましたよ。あなたに会ったことがないと言っていました。どうしようもないでしょう。あなた抜きで私たち一市議会議員が本当にもう大変でしたよ。でも、あなたが動かんから私たちがせざるを得んじゃないですか。（「入江議員、ちょっと言い過ぎじゃないですか、それは」と呼ぶ者あり）

来年の市長選に出られるんですけど、前回の舞台が分かってあると思いますけど、おりませんので、どのような票で当選されるか、楽しみです。

それでは、企業誘致に入ります。

私は国にお願いして、2つの企業を持ってくるように話合いをして帰ってきて誘致課に行きました。そしたら、全然、企業誘致はもうしないということで、来るなら自分たちで土地を買ってせえちゅうことだったんですけど、企業誘致の担当課もたった4業種だけではもうどうしようもないんですよ、これは、持ってくるのに。私が持ってくるようにしたのは別の業種で、この中に入っていないんです。だから、全然国が協力してやるちゅうたところで、誘致じゃなくて自分で土地を買って自分でしてくださいということで部長も言われましたので、もうこういうことでは駄目ですから、業種を増やしてもらうわけにはいきませんか。お答えください。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 今、現在の4業種を増やすということでございますけども、他の長崎県内の自治体の企業誘致関係条例も見ていただければ分かるかと思っておりますけども、大体みんな同じぐらいの状況となっているところでございます。その中で、例えば、先ほども冒頭答弁いたしましたけども、小売業とか、対馬の今現在の市内の事業者に大きな影響を与えるような業種については、私自身、企業誘致をすべきじゃないというふうに思っております。

要は、今現在の対馬市内の企業を潰すようなことは私はしたくない。そういうことで、今現在

は、この4業種4分野で絞っております。その中で、どうしても、ただ、これ以外に市民のためになるというような経済効果が出るというような企業については、私のほうで判断をしていくということで今現在の条例は決まっているところでございます。

そういうことで、今現在、対馬にも小売業関係で、コスモスとかいろいろな事業者が入っておりますけども、ここも誘致企業ということにはなっておりません。ちょっと詳しいことは担当部長のほうから答えてもらいます。

○議長（初村 久藏君） しまづくり推進部長、伊賀敏治君。

○しまづくり推進部長（伊賀 敏治君） 今、市長が答弁したとおりなんですけども、県内自治体でも業種を細かく分けている自治体もあることは承知しております。ただし、詳細に業種を分けたとしても、どうしても想定以外の業種の方も出てくる可能性もございますので、対馬市としては4業種にしておりますけども、冒頭、市長の答弁にありましたとおり、市長が必要と認めたものについては、前項の規定にかかわらず指定することができるということとしておりますので、考え方によっては幅広い業種を受け入れられるということにもつながっていると思います。

ただし、地域課題の解決度や市内事業者との競合性を十分検討してという前提にはなっておりますけれども、そういうことでございます。

○議長（初村 久藏君） 7番、入江有紀君。

○議員（7番 入江 有紀君） 企業誘致条例の改正が上がってきていますけど、今議会です。

4業種だけなら改正する必要はないと思いますので、委員会のほうでやと思いますので。

それと、私はちょっとひとつ市長にお聞きしたいことがあるんですけど、私は前議会で、一般質問で、市長のことを、一応2期8年間何を持ってきたんですか、何か人口が増えるようなことをしましたか、ちゅうことを聞いたときに、僕は僕なりに8年間頑張っている持ってきました、と言われたんですけど、前回の一般質問で、何を持ってこられたか、雇用が増えるようなのをです。私は全然、あなたが分からないだけですよと言われたんですけど、どうも私は幾ら考えても、何をあなたが8年間で功績を残されたかちゅうのが全然分からないんですけど、教えていただけますか。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） まず、私がこれまで実施してきた主な事業でございますけども、このふるさと納税の返礼品事業を開始したと。このことによって地域の加工業者等がかなり生産高が上がったというふうに自負しております。そしてまた、今現在これまで対馬のインターネット等の速度が遅いということで苦情が来ておりましたけども、このことを改善するためにNTTと協定を結んでNTTのほうに譲渡して通信基盤を改善してもらうということに今現在、取り組んで、既に進められているところでございます。

そしてまた、今現在、対馬市が進めておりますSDGs未来都市に、長崎県内では壱岐に続いて対馬市が選定され、今、長崎県内21市町で2市だけでございます。このことについても一生懸命に取り組んでいるところでございまして、これに向けた協定も8社ほど包括連携協定を結びまして、その会社等が今スタディツアーということで、ごみの回収をしながら、そして対馬の歴史や文化を勉強するというので、かなりの方々が対馬にお見えになっているところでございます。

そして、今度、地域づくり事業に関しましては、厳原南部のアクションプランを策定しまして整備も進めているところでございますし、中対馬のアクションプランのほうも策定いたしまして今現在、進めております。この中で、特に神話の里のトイレ等も整備、きれいにしまして、このトイレについては各観光客から大いに喜ばれているところでございます。

それからまた、特定地域づくり事業による協同組合も設立いたしまして、雇用の場を確立しているところでもございますし、シルバー人材センターも、法人化を令和5年3月にいたしまして高齢者の雇用の場を確保しているところでございます。

そしてまた、子どもの施策にとりましては、船越議員の際も申し上げましたけれども、GIGAスクールの開催によりまして、小学生、中学生、各1人ずつタブレットを渡しまして、情報化社会に対応できる子どもづくりを目指しているというところでございますし、子ども医療費の支援につきましても、平成28年度から小学校の就学時から中学校まで子ども医療費のほうが無料ということで実施をしているところでございます。

また、このほかにもまだまだいろいろございますが、対馬の経済を発展させるために、対馬地域商社のほうも令和元年度に加工場を建設いたしまして、運営を行っているところでございますし、そのための漁業を活性化させるための魚礁のほうも計画的に実施しておりまして、平成28年から今現在28か所の魚礁を整備しているところでございます。

今後にもいろいろまだ整備していくことも残っているわけですが、国境サイクリング大会も平成30年度から実施いたしておりますが、ただ、このコロナの間にはちょっとなかなか感染対策として中止ということで休んでおりましたが、この3月には再開の予定であります。

そのほか、生活基盤の整備といたしましても、新規路線といたしまして市道の仁位貝鮎線とかを今、拡幅工事を着手しておりますし、尾浦浅藻線の改良工事のほうでも、トンネル工事のほうに着手したところでございます。

最後に、対馬3高校の魅力化推進事業といたしまして、対馬の子どもたちに陸上競技指導者を招聘いたしまして、対馬の子どもたちが、できる限り対馬の高校に入学できるように、残れるように、今後も進めてまいりたいと思っておりますし、最後に令和9年度からの予定でありますけれども、特別支援学校の開設も県のほうにお願いをいたしまして決定をしているところでござい

ます。

以上です。

○議長（初村 久藏君） 7番、入江有紀君。

○議員（7番 入江 有紀君） ヤングケアラーのことについてに入ります。

この問題は何回もやってきた問題なんですけど、対馬市としては、このヤングケアラーのことをどのように今後していこうと思ってるか、御答弁ください。

○議長（初村 久藏君） 教育長、中島清志君。

○教育長（中島 清志君） 入江議員には、日頃からヤングケアラーのことを心配されて、教育委員会にもたくさんの資料をいただいております。お礼を申し上げます。

今回の調査結果を先ほど申し上げましたけども、対馬市で小学生10名、中学生8名となっております。この内訳、個人名はもちろん分かりませんが、もう少し調べると、お世話をしている相手というのが小学生の74.2%、中学生の57.2%が兄弟さんのお世話をしているということなんです。それと、お世話をするときの、誰と一緒に世話しているかという質問に対して、独りでしているという子が、小学生がゼロ名でした。中学生が1名という結果でした。したがって、今現在、緊急を要するような対応は、教育委員会としては今のところないのではないかなと考えておりますけども、これは、子どものことだけではなくて家庭のことも心配ですので、関係部局と連携しながら適切な対応ができるように努めてまいりたいと思います。

○議長（初村 久藏君） 7番、入江有紀君。

○議員（7番 入江 有紀君） このヤングケアラーの件では、厚生常任委員会で大村まで行ってきました。まつなぎやというヤングケアラーの子どもたちの居場所づくりがしてあって、これが、日本財団が3年間はお金を出して運営して、あとは大村市がするようになっているんですけど。

話を聞いてきたんですけど、このまつなぎやというのが、大村が最初3名しかいなかったんですけど、このまつなぎやができて18名に増えたそうです。18名でどんな仕事をしてあるかと言うたら、ヤングケアラーの子どもたちだけじゃなくて、登校拒否の子とか、それから貧しい子どもたちとかを集めて、ヤングケアラーももちろんですけど、子ども食堂みたいに食事したり、勉強をさせたり、ゲームをさせたりして預かって、夕方は学童のお金を払い切らん子たちの学童保育もしてあるそうです。

それで、一応、私は日本財団のほうに代議士さんを通じて、大村みたいなまつなぎやをつくっていただけないかということで今、要望を出しておりますので、これの返事が来たら、また委員会のほうにもお話はしますが、こんなのをつくってあげて、ちょっとでも介護している時間から離れてゆっくりさせてあげたいというのが私の考えで、子ども食堂をやっていますので、その間だけでも子どもたちの安らぐ場所をと思って、子ども食堂の一部にヤングケアラーの居場所

づくりを一応、考えております。

それで、もし市のほうが、日本財団が協力してくれて、まつなぎやみたいな居場所づくりができるなら、市のほうも協力していただきたいと思っています。

時間が来ましたので、よろしくお願ひします。ありがとうございました。

○議長（初村 久藏君） これで、入江有紀君の質問は終わりました。

○議長（初村 久藏君） 以上で、本日予定しておりました市政一般質問は終わりました。明日も引き続き、定刻から市政一般質問を行います。

本日はこれで散会とします。お疲れさまでした。

午後2時05分散会
